

キエフがウクライナへの人道的救援を阻止、攻撃の危険も— ロシア

August 16, 2014

RT



東ウクライナに対する人道援助物資を運ぶ輸送団が、キエフ軍によって攻撃されるかもしれないという情報を、モスクワは得ている。これは“懲罰的な”アイダー大隊（Aidar Battalion）が、トラック団が利用するはずの道路を爆破する計画をもっているらしいということだ、とロシア外務省は言っている。

金曜日、モスクワは、人道的輸送団が物資配達の準備をすっかり整え、すべての鍵となる問題が合意に達した今となって、ウクライナがこれを阻止しようとしていることを非難した。

「我々は、キエフの合意をすでに得ている、ロシア - ウクライナ国境を通過してルガンスクに至る人道的救援隊の通路を、明らかに阻止する目的で、ウクライナ軍の行動が急に増強されたことに驚いている」と、外務省は声明で述べた。

モスクワの見解では、こうしたことは、ウクライナにも他の外国にも、「新たな犠牲者と破

壊が生ずることを無視して」までも、人道的使命を阻害しようとする人々がいるという印象を与えるものだ。

「このような犯罪的な計画をもつ人々には、その結果に対するきわめて大きな責任が生ずる」と、外務省は言った。

ペンタゴンは人道的救援に関して説明を試み、「Shoygu ロシア国防相は、ロシアの軍関係者はこの人道的救援輸送団の中には含まれていないこと、また輸送団をウクライナに介入するための口実として利用することはないと“保証した”」と述べた。

一方、反キエフ軍は、ルガンスク近くで、ロシアの人道的輸送団を攻撃する使命を帯びた敵の偵察隊を捕まえたと発表した。

反キエフ軍によれば、シボレー・ニーヴァに乗っていた3人の兵士を拘束したが、そのトラックには「3つの手りゅう弾発射機、8つのカートリッジ、7つの対戦車地雷、小火器、および弾薬を収納する金属箱」が、民兵団によって発見された。兵器はパスタの袋に隠されていた、と自衛軍司令部は **Itar-Tass** 通信社に語った。

同時に、破壊部隊は、輸送団を破壊するのではなく、車列をロシア国境にまで追い返して、苦しんでいる住民に食料を手渡さないように命令されていたと言われる。

ロシアは、280台のトラックからなる人道的救援の物資——医薬品、乳児用のものを含む食糧品、寝袋、その他、基本的必需品——を、火曜日に、戦争によって引き裂かれたウクライナ南東部に届ける輸送団を送った。輸送団は、現在、ウクライナ国境で立ち往生しており、前進するためにキエフからの最終的承認を待っている。

ロシアはまた繰り返して、ウクライナ政府と ICRC (赤十字国際委員会) の間で合意された、可及的速やかに、援助物資全体をドンバスの住民に届けるという計画を、実行するつもりだと述べた。



南東ウクライナの人々に救援物資を運ぶ Kamaz トラック団、ロストフ地区 Kamensk-Skakhtinsky から遠くない休憩所にいる。

「我々はこのミッションの安全保障を確保するために、あらゆる努力をしている」と、外相は言った。ロシアは、キエフ軍と東ウクライナ民兵団の双方が、直ちに戦闘停止を通告し、人道援助物資がドンバスの住民に届くように協力するよう要請した。

モスクワは、自分たちの支援が、ICRC、OSCE（欧州安全保障協力機構）および国連からの協力を得られるよう望んでいると言った。

現在進行中の戦闘によって荒廃している、ウクライナの諸地域の住民に対する人道援助についてもまた、金曜日、ウクライナ・ロシア双方の外相間で、電話による交渉が行われた。彼らは国際的な諸機関が「もっと有効で責任ある」役割を、人道的ミッション遂行のために果たすべきことを強調した、とロシア外務省は言った。

救援物資の配達と、東部ウクライナ戦闘地域からの市民の疎開のためには、人道的回廊を作るための即刻の停戦が必要だ、とロシア国防相 **Sergey Shoygu** は、アメリカの国防長官 **Chuck Hagel** との電話による状況説明で強調した。

ロシア救援団のウクライナへの道は、キエフがこれを受け入れるべきかどうかの議論を長引かせ、“トロイの木馬”の可能性があると心配しているので、かなりの茨の道になっている。

救援輸送団は停戦への道を開くかもしれない——フィンランド

フィンランド首相 **Sauli Niinisto** は金曜日、ウラジミール・プーチンと会い、ロシアの救援輸送団が、キエフ政府と東部ウクライナの自衛民兵団の間の停戦のために、道をつけてくれることを望んでいると言った。

ロイター通信によると、ソチでのロシア首相との会談の後の談話で、ニーニスト首相は、ウクライナ、ロシアおよび国際赤十字団の間で、救援団を東部ウクライナに入れることについて、合意ができていと話した。

「我々はこのニュースが、相互信頼の可能性の強化の証になることを望んでいる。そして我々は、次のステップ、つまり停戦のためには、この相互信頼がどうしても必要なのだ」と彼は言った。

しかし、通訳を通じて話したフィンランド首相が、ひとたび救援団が赤十字の調査と監視に手渡されれば、彼らはウクライナに入れるという、モスクワとキエフの間の合意のことを言っていたのかどうかは、直ちにはわからなかった。

ジュネーブの ICRC は、どんな最終的合意がなされたのか知らないと言った。

金曜日のそれより早くに発表された声明では、国際赤十字は、ロシアとウクライナが現実的な最終的な詰めに入っていると述べた。

「合意に達し次第、我々はこの人道的救援物資を、東ウクライナの戦争で傷ついた人々や、医療施設や他の福祉組織に届けるつもりでいます」と、ICRC ヨーロッパ・中央アジア本部長の **Laurent Corbaz** は声明で述べた。「人々は、水や電気のような基本的なサービスがほとんどなくなって苦しんでいます。だからスピードが何より肝要です。」

5人からなる ICRC チームがすでに、ロストフ地区に駐車しているロシアの救援団の近くにいるのに加え、さらに 15 人のスタッフがこの地域に送られた。別のチームがルガンスク地区の **Starobelsk** に配備されたが、ICRC 声明によれば、ここには、トラック 50 台ほどのウクライナのある救援団が金曜日に到着した。

ICRC は、彼らが必要とするのは「紛争のすべての当事者から、我々のスタッフが安全に、かつ我々の人道的な原理に対するしかるべき敬意をもって、使命を果たすことができるよ

うに保証されること」だと言った。

「込み入った輸送と安全保障の問題が絡んでくるので、この救援活動にはある程度の時間がかかるでしょう。そこで我々は両当事国の政府が、すみやかに障害となる問題の解決のために、あらゆる努力をしてくださるようお願いしたいものです」と、**Corbaz** は言った。